

中3 ショートストーリーを作って和歌を紹介しよう

研究主題 「付けたい力を明確にし、言語活動を適切に位置付けた授業の充実」
一書く活動を単元に位置付けた単元計画の工夫一

日立市立助川中学校 市野沢 直樹

I はじめに

本県の中学校国語科における重点は「事柄や根拠を明確にして自分の考えを表現する力の育成」とされている。平成27年度全国学力・学習状況調査の結果からは、「自分の考えを支える根拠を明確に示しながら作品の全体像を捉え、場面や登場人物の役割等を分析的に考える授業を行うこと」が学力の改善策として挙げられている。これらのことから、「根拠をもって自分の考えを述べたり考えたりすること」の重要性が分かる。

そこで、話し合いや文章読解などの授業場面で、自分の考えの根拠を明確にするための手立てを考えたとき、根拠となることを記述し、可視化することの重要性を感じた。可視化したものを言語活動のツールとすることで、自分の考えを的確に述べることに繋がったり、自分の考えを深めることに繋がったりする。

また、学習の成果物として書く活動を通じた作品が残ることで、教師側の正確な評価に大いに役立ち、作品が残ることで生徒に学習の達成感を味わわせることにもつながる。さらに、教師側の正確な評価は的確な支援につながり、生徒の達成感は学習意欲の向上につながる。

そこで、多方面から国語の能力を育成するために、書く活動を単元に位置付けて言語活動を充実させることを本主題として設定した。

II 研究の仮説

- 1 和歌について読み取ったことを物語形式で表現する活動を行うことで、和歌への理解を深め、古典に親しもうとする気持ちが高まるだろう。
- 2 言語活動のツールとして使用したものが学習の成果物になるようにすることで、成果物ができた達成感ややりがいから学習意欲を向上させ、書くことへの抵抗を軽減することができるだろう。
- 3 書く活動で成果物を残せば、生徒の自己評価や教師の評価が正確になり、より適切な支援につながるだろう。

III 実践事例

1 学習指導案

本時の授業の仮説（テーマ）

～和歌を歴史的背景に注目して読み、言葉や表現から情景や心情を捉えて短い物語形式で記述する活動を行えば、古文の動作の主体を正しく捉えたり、和歌自体の内容を正しく理解したりする力が身に付き、古典の世界に親しむことができるだろう～

- (1) 単元名(教材名) ショートストーリーを作って和歌を紹介しよう
(東京書籍3年「万葉・古今・新古今」)

(2) 単元を貫く言語活動とその特徴

① 言語活動

- ・歴史的背景に注意して和歌を読み、和歌を紹介する文章を書く。

② 言語活動がもつ特徴

- ・100字程度のショートストーリーを作って和歌を紹介する活動は、歴史的背景に注意して和歌を読み取ることで興味・関心を高め、内容の理解に役立てるためにふさわしい言語活動である。

③ 言語活動を通して身に付ける力

- ・歴史的背景に注意して古典を読み、その世界に親しむこと。

(〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕ア(7))

(3) 単元について

① 生徒観

生徒は、2年生の2学期に行った「清少納言をまねてマイ枕草子を書こう」という学習で、作者である清少納言のものの見方を参考に、自分の考えを広げてきた。その結果、時代を通じて変わらない人々の感性や日本の美意識について理解を深めることができた。

実態調査を見ると、平成28年度全国学力学習状況調査の中学校第3学年国語A問題の[9]七において、1では正答率が89.7%、2では96.6%であった。このことから、古典についての基本的な知識は身に付いていると考えられる。以前実施した実力テストの古文の設問を見ると、動作の主語を選ぶ問題の正答率が51.8%、文章の内容に合致するものを選ぶ設問では74.1%と課題が見られた。この結果は、古典を読むことへの抵抗感のあらわれと、古典を物語として捉え、内容の理解に踏み込むことができていないからだと考えられる。そのため、興味・関心をもった教材について主体的に学習できる授業の展開と、古典の内容に深く踏み込んで正しい理解ができるよう指導する必要がある。

〈実態調査〉 平成28年度 全国学力・学習状況調査、9/2実施 実力テスト

(平成28年10月1日29人)

国語A[9]七	正答率
1. 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す	89.7
2. 古語の意味として適切なものを選ぶ	96.6
実力テスト(古文に関する問題)	
・動作の主語を選ぶ問題	51.8
・文章の内容に合致するものを選ぶ	74.1

② 教材観

本教材には、「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」から和歌が掲載されており、3つの歌集を対比することで、時代とともに作風や表現が変化していることを捉えることができる。それぞれ長歌、反歌、東歌、防人の歌、季節の歌、恋愛の歌など、特徴的な歌が厳選されている。そこで、歴史的背景によって歌に込められた思いにどんな違いがあるのか考えることで、作者について調べたり、表現技法に注目したりして、和歌を深く読み取ることができるものとする。以上のことから、本教材は、歴史的背景に注意して古典を読み、その世界に親しむためにふさわしい教材である。

③ 指導観

本単元では、「ショートストーリーを作って和歌を紹介する」という単元を貫く言語活動を設定し、学習活動を行う。その理由は、動作の主体を含め、古文の内容を正しく理解することのできる生徒が少ないためである。和歌を歴史的背景に注目して読み、言葉や表現から情景や心情を捉えて短い物語形式で記述する活動を行えば、古文の動作の主体を正しく捉えたり、和歌自体の内容を正しく理解したりする力が付くだろうと考えた。

まず、教師自作のショートストーリーのモデルを提示し、言語活動の見通しをもたせる。次に、最後の一句が抜けた和歌を提示し、どんな言葉が入るか考えさせる。そして、その和歌の情景、人間関係、作者の思いを捉えて100字程度のショートストーリーを作成する練習をする。最後に、自分の選んだ和歌の作者や表現技法などについて調べ、内容を読み取ってショートストーリーを作成する。作者や歴史的背景、表現技法や現代語訳など、和歌について多様なアプローチをすることで、内容を深く正しく理解し、自分の考えをもつことができると考える。

(4) 単元の目標

- 古典について関心をもち、進んで読み調べるなかで古典に親しむことができる。
(関心・意欲・態度)
- 和歌を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつことができる。
(C 読むこと)
- 歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

(5) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
和歌が詠まれた背景や作者の心情を調べたり想像したりしながら、和歌の世界に親しもうとしている。	和歌を読んで、当時の人間社会や四季の美しさなどについて理解を深め、自分の考えをもっている。	和歌の歴史的背景に注意して読み、その和歌に込められた思いや内容を具体的に考えている。

(6) 単元の指導計画（全5時間）

次	時間	学習活動・内容	指導上の留意点(○)・評価規準(◎)(観点・評価方法)
1	1	① 学習活動の見通しをもつ。 ② 3つの歌集の特徴をまとめる。	○ 教師自作のモデルを提示し、単元の見通しをもたせる。 ◎ 古典の歌集に関心をもち、意欲的に学ぼうとしている。 (国語への関心・意欲・態度 ワークシート)
2	2	① 和歌に対する読みを深める。 ② ショートストーリーを作る練習をする	○ 提示された和歌の情景や心情を想像することでショートストーリーを作る活動への意欲づけをする。 ◎ 和歌を読んで人間、社会、自然などについて自分の考えをもっている。(読む能力 ノート)
3 ・ 4 本 時	3 ・ 4 本 時	① 和歌の作者について調べる。 ② 和歌に込められた意味や表現技法について調べる。 ③ 和歌を紹介するショートストーリーを作る。	○ 単なる和歌の訳にならないよう、作者や表現技法などについて理解を深めるため、資料や図書を参考にさせる。 ◎ 和歌を読んで人間、社会、自然などについて自分の考えをもっている。(読む能力 作品)
4	5	① 友達のショートストーリーと解説から、他の和歌について理解を深める。	○ ワークの問題を解く際、友達の作品を参考資料とすることで、交流しながら知識を定着させることができるようにする。 ◎ 友達の作品から、歴史的背景などに注目して古典の世界に親しんでいる。 (言語についての知識・理解・技能 ワークシート)

(7) 本時の学習

① 目標

歴史的背景や作者、表現技法などに注目して和歌を読み、内容の理解に役立て、その和歌を紹介する100字程度のショートストーリーを書くことができる。

② 準備物

ワークシート、掲示物(グッドモデル、バッドモデル、グッドモデルの解説資料)、実物投影機

③ 展開

学習活動・内容	指導上の留意点(○)・評価(◎)
1 本時の学習課題をつかむ。 込められた心情や情景などを捉えて、和歌を紹介するショートストーリーを100字程度で書こう。	・ 前時までの学習内容と次時の学習内容に触れることで、単元全体の中での本時の位置づけを意識させる。
2 バッドモデルとグッドモデルを使って文章の書き方について考える。 春立てば 消ゆる氷の 残りなく 君が心は 我にとけなむ (バッドモデル) 春になり暖かくなると、冬の氷も溶けて残らなくなるように、あなたの心もすっきりと私の心に溶けてほしいものです。 (グッドモデル) 寒い冬も終わろうとしている。ようやく顔を見ることができたが、時々寂しそうな表情を見せる君。暖かい春の陽がすっきり氷を溶かすように、君の固く閉ざした心	・ バッドモデルとグッドモデルそれぞれの特徴を考えさせることで、どのようなショートストーリーを作成すればよいかの見通しをもたせる。 ・ 2つのモデルを提示する際に、どのようにショートストーリーを作成していけばよいか分かるよう、グッドモデルを手引きとして活用するよう助言する。 ・ グッドモデルの特徴をおさえる際には、前時にショートストーリーの要素として挙げた「情景」「人間関係」「作者の思い」の3つが必要であることを理解させる。 ・ ショートストーリーを作成する際には、図書

も私のところにすべて溶けてくれたらいいのに。

- ・バッドモデルは単なる訳になっている。
- ・グッドモデルは、和歌の中から情景、人間関係、作者の思いを想像して物語として完結させている。

3 図書や資料で調べたことをもとに和歌を紹介するショートストーリーを書く。

- ・作者の視点で考え、作者を主人公とした物語を創作する。

4 本時の学習を振り返る。

- ・作者の生い立ちから、性格を読み取ってストーリーに組み込むことができた。
- ・「かれぬ」という掛詞をふまえ、具体的な情景を想像して表現することができた。
- ・「峰にわかる横雲の空」の「横雲」を別れてしまう恋人になぞらえることができた。

や資料等で現代語訳を確認させ、動作の主体など、根幹の部分のずれが出ないように注意させる。

- ・図書や資料は自分で選択してよい旨を伝え、主体的に調べることができるようにする。
- ・よい気付きや、優れた表現の工夫をしている生徒を称賛し、参考にさせる。

評 調べたことをもとに、「情景」「人間関係」「作者の思い」をふまえて自分の選んだ和歌を紹介するショートストーリーを100字程度で書いている。

(言語についての知識・理解・技能 記述)

- ・発表に対してうなずきや拍手を促し、共感的に意見を聞き入れられるようにする。
- ・書いたショートストーリーを読み返しながら振り返ることで、自分の工夫や達成度を確認することができるようにする。

(8) 授業の実際

仮説2について、ねらいを達成するために以下の工夫をした。

○ 生徒が主体的に活動し、より良い成果物を完成させるための工夫

ショートストーリーの性格上、人物や出来事を人に語るという形式をとることになる。そこで、和歌は作者の視点で詠まれているため、動作主が作者自身であることが多いことを再確認した。また、いつ(季節)どこで(どこを訪れたか)何があったてどうしたのか、その動作の主体は誰かなどを押さえながら各自で和歌を読み進めた。なお、解釈が和歌に込められた意味の大筋から逸れないようにするため、和歌について解説している図書を参考資料として用いた。

ショートストーリーの作成には3つの手順を追った。

ア 和歌の詠まれた歴史的背景をおさえる。(作者・時代についての理解)

イ 和歌の意味を理解する。(和歌の内容理解)

ウ 作者の視点で考え、作者を主人公とした物語の創作(動作の主体の理解)

アについて

万葉・古今・新古今のどの歌集に収められているかを調べた。時代毎の和歌の特徴や、作者の歴史的な立ち位置を知ることによって和歌の意味に忠実なショートストーリーになると考えた。



技法	使用例
比喩	あまのこころは雲の如く
擬人	花のよはは移りにけり
擬物	あまのこころは雲の如く
擬声	あまのこころは雲の如く
擬態	あまのこころは雲の如く
擬動	あまのこころは雲の如く
擬静	あまのこころは雲の如く
擬色	あまのこころは雲の如く
擬味	あまのこころは雲の如く
擬臭	あまのこころは雲の如く
擬触	あまのこころは雲の如く
擬知	あまのこころは雲の如く
擬情	あまのこころは雲の如く
擬理	あまのこころは雲の如く
擬法	あまのこころは雲の如く



歌人	代表作
万葉集	あまのこころは雲の如く
古今集	あまのこころは雲の如く
新古今集	あまのこころは雲の如く
新古今集	あまのこころは雲の如く
新古今集	あまのこころは雲の如く
新古今集	あまのこころは雲の如く
新古今集	あまのこころは雲の如く
新古今集	あまのこころは雲の如く
新古今集	あまのこころは雲の如く
新古今集	あまのこころは雲の如く

【資料1 国語便覧 時代による表現技法の使われ方】

【資料2 国語便覧 代表的歌人の紹介】

イについて

教科書の和歌を読んでの個人の解釈に加え、国語便覧や図書資料などを用いて、正確な内容の理解に努めた。特に、現代語とは意味の異なる語が多いため、自分だけの解釈ではなく、客観的な歌の意味を理解できるようにした。

(例)

君待つと 我が恋ひをれば 我がやどの 簾動かし 秋の風吹く

額田王

「君」→ 現代語での意味「あなた（私の恋しいあなた）」
作中の意味「天皇（寵愛を受けた天智天皇）」

ウについて

歌の意味を基本線にして、いつ（季節）どこで（どこを訪れたか）何があつてどうしたのか、情景の美しさや心を動かされた出来事などを、動作の主体を明確にして物語形式で記述した。必要があれば、読み手の理解の助けになるような注釈を用意させた。【資料3 生徒の作品例】

君待つと我が恋をれば我がやどの
簾動かし秋の風吹く
額田王

へシラトストーリーへ
私の庭のまじがまき色づきはじめてた。秋の風が簾を
動かして、家の中に入ってくる。その簾が動かした私は
あなたが来たのではないかと期待してしまふ。がいつ見
てもあなたの姿はここには見えない。あなたがどこで
化し、お方であることは分かっていられれば、それでも
全いたいかうどうしても期待してしまふ。
本当はしてはいけないんだということを十分分かっ
ているつもりだ。でも一度芽生えてしまつたこの
感情は簡単には消えてくれない。
だから私はいつまでもあなたを待ち続けてしまふ。

へ歌集へ
万葉集

へ表現技法へ
特になし

へ注釈へ
額田王は、はじめ大海人皇子（のちの天武天皇）に
愛されたのち天智天皇に召された。大海人皇子と
天智天皇は兄弟であり、この三人は三角関係で
あったと言われている。

○ 成果物を教師側の評価、生徒の自己評価に生かすための工夫

書く活動を通してできた成果物を教師側の評価や生徒の自己評価に生かすため、以下の二つを実践している。

ア 振り返りを充実させるための工夫

イ 評価規準の明確化

ア 振り返りを充実させるための工夫

学習計画表を利用し、授業終末の5～7分を振り返りの時間に充てている。振り返りの際には、その時間のめあて、目標を個人内で達成できたかどうかを確認させたい。そのため、単なる授業の感想「楽しかった」や事実「できた」にならないよう、自己評価の視点を「この時間に分かったこと、できるようになったこと、身に付けた力」としている。また、具体的に書

【資料4 学習計画表の例】

[illegible]

資料と国語使用から
情報を集めて、シートストーリーの
内容に少し入れることができた。
シートストーリーは主語がなく
わがまのように私をつけた。
おまけ

【資料5 生徒の振り返り】

書く活動や成果物を正確に評価することができれば、この達成状況に応

じて適切な支援を講じることができる。そこで、正確な評価をするために教師側の評価規準を明確にしておく必要がある。また、評価規準を生徒に開示しておくことで、生徒はより良い評価を得るために意欲的に学習に取り組むようになる。本単元では、「読むこと エ」を踏まえ、以下の評価規準を設定した。

- ① ショートストーリー中の動作の主体は明らかである。
- ② 歌本来の意味からのずれがない。
- ③ 季節、情景、人間関係が適切に描かれている。
- ④ 表現技法、人物の立ち位置、当時の恋愛などをふまえている。

4項目中0～1項目を満たしている…C



【資料6 授業の様子①】



【資料7 授業の様子②】

IV 研究の成果

1 仮説1について

学習指導要領解説には「歴史的背景に注意して古典を読み、その世界に親しむこと」がねらいだとされているが、そのねらいにとどまらず、実力テスト等で見られた課題の解決に迫ることができた。特に、11月8日に実施した「学力診断のためのテスト」では、「文語文中の会話の相手をとらえる」設問で県平均を9.9ポイント上回ることができた。「文章全体の内容を的確に読み取る」設問では県平均を7.5ポイント上回り改善が見られた。

2 仮説2について

平成28年度と平成27年度の「学力診断のためのテスト」の無答率の比較を行った。(本校正答率)-(県全体正答率)を比較したところ、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の無答率が減少した。授業を通し、書くことを習慣づけることができていると考えられる。また、自分の考えを形にすることへの抵抗感が軽減されていると考えられる。

3 仮説3について

観察や発言に注目する評価の方法は必ずしもすべての生徒を評価できるとは限らない。今回の取り組みでは、単元の終末付近に成果物を評価することができたので、全員に対しある程度妥当性のある評価をすることができた。また、あらかじめ評価規準を伝えておくことで、生徒が自分で気付いて必要な要素を付け加えたり、生徒相互で評価し合ったりする姿が見られた。グループで課題を解決する活動でも達成すべき課題とその評価規準を明確にすることで、より生徒主体な学び合いが展開できるのではないかと感じた。

V 今後の課題

書く活動を単元に位置付けるうえで、実態調査と付けたい力を明確にしておくことの重要性を実感した。単に作品を残せばよいのではなく、言語活動のツールとして使用したものが単元の終末で成果物になるように単元を構想するのが理想的だと感じた。また、学習の成果物を単元終了後に掲示したり、後の学習に生かすような工夫も必要だろう。

評価を支援に生かすため、単元の終末だけでなく、毎回の授業で小さな評価を重ねることが大切だということが分かった。また、書く活動が、学習の苦手な生徒の抵抗感につながらないようにするため、課題の難易度や書く量などにも注意して単元を構想していけるようにしていきたい。

参考文献：「中学校学習指導要領解説 国語編」 文部科学省 平成20年9月

「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料(中学校 国語)」

国立教育政策研究所 教育課程センター 平成23年11月

資料1 (国語便覧 時代による表現技法の使われ方)

資料2 (国語便覧 代表的歌人の紹介)

資料3 (生徒の作品例)

資料4 (学習計画表の例)

資料5 (生徒の振り返り)

資料6 (授業の様子①)

資料7 (授業の様子②)